

2006 年度

科目名 ことばの科学 B	対象学科・学年 文学部日文 2 回生 文学部英米 2 回生 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 溝口 健司
授業テーマ 言語の本質を探索。		
授業の概要と目標 宇宙論および進化論の観点から言語の本質に迫る。言語は認識の反映であり、認識は宇宙におけるひとつの現象として根源的には物理法則に支配されている。空間が重力で歪むように、言語や認識は例えば注意力あるいは無意識の力によって歪む。また、宇宙誕生以来の組織化の結果として発生した生物が進化する過程のなかで、言語は情報を受け取り、状況を操作する道具として経済性にすみずみまで支配されている。この授業では、＜物理的存在である物質宇宙＞と＜認識の産物である言語＞にどのような関連あるいは連続性があるのかを探索。		
評価方法 学期末の不定期試験、および質疑応答・討論などにおける発言の質・量によって評価する。		
テキスト プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 『宇宙・エントロピー・組織化』 『ユーザー イリュージョン 意識という幻想』	著者 H. リーヴズ T. ノーレットランダーシュ	出版社 国文社 紀伊國屋書店
授業スケジュール・内容 基本情報を共有した時点で必要に応じてテーマに関連する討論をおこない、参加者全員の理解の深化を図る。 1. 目的性と経済性 2. 道具と経済性：道具としての精神・身体・情況 3. 類縁性と反復：「恣意性は言語にとって本質的か？」（ソーシャル批判） 4. ゲシュタルトと組織化：無生物と生物の連続性 5. 組織化の構造：多層レベルの反応現象 6. 討論 7. メタファと「駄」洒落：芸術の駄洒落性あるいは駄洒落の芸術性 8. 進化と駄洒落：コピーとミスコピー 9. デジタルとアナログ 10. なぜ表現するのか？しないのか？ 11. なぜカテゴリーが存在するのか？ 12. 感情と「非知」 13. 討論 14. 質疑応答 15. 不定期試験		